



発行: ODR Room Network

オフィスツールのミニ知識

(Ms-Word 編)

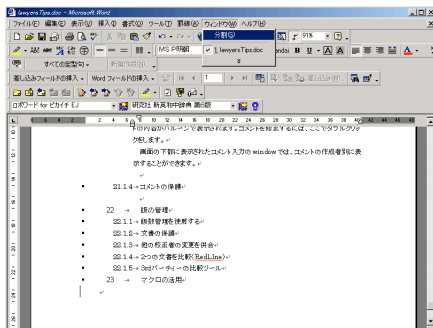
弁護士・弁理士事務所で作成する書類は、一般企業でのそれと比べていくつかの特徴があります。例えば、準備書面・訴状・陳述書・弁論書など、1) いずれも長文になること、2) クライアントを始め、パラリーガルや主弁護士、パートナー弁護士、コンサルタント、編集者など複数の関係者が同時に閲覧、校正をした協調作業であること、また、3) 論旨をはっきりさせるための構成が重要であり、4) 文書内および添付資料への参照や脚注の多様と、一般の書類ではほとんど使用しない機能が、重要な位置をしめています。

市販のWord解説書やOAスクールでは、このような機能は「覚えておく」程度の位置付けで、法律事務所で実用的な内容とはいえません。本書では、米国の法律関係者が書いた法律事務所向けの解説を参考に、より実務に役立つ内容の解説を行います。

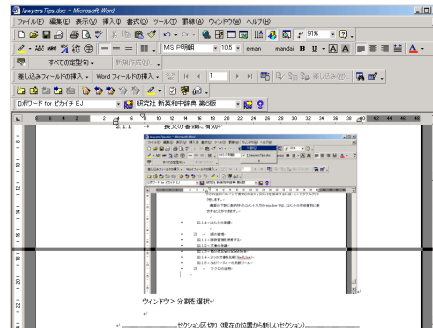
ODR Room Network

同じ文書を分割して見る

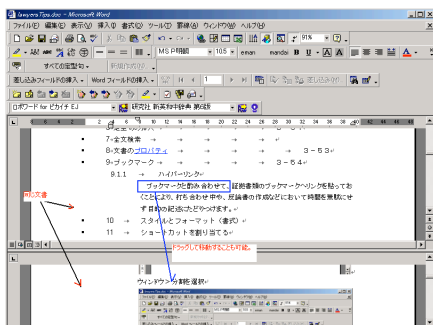
訴訟に関する文書では、長文になることが多く、文書内での他のセクションを参照することも多くなります。文書作成中に、長文の離れた2ヶ所の記述を同時に参照したい場合、スクロールするのは大変ですし、あるフレーズを文書の先頭の方から最後の方にドラッグして移動する場合、スクロールをしながら行うのも忍耐のいる作業ですし、操作の失敗で関係のない部分にドロップしてしまうこともあります。分割機能は、長文書類に非常に有効で、すぐ使える機能の一つです。



① ウィンドウ>分割を選択



② 移動できる線が現れるので、分割したい場所まで移動。



③ 同じ文書を2分割して表示できる。それぞれのwindow内でスクロールができ、window間でコピー、ペーストが可能。

もっと詳しい情報は・・・

03-4360-5691

ODR Room Network 万代(マンダイ)

本誌をEmailでお送りしています。題名に“ミニ知識”とだけ入力して、emandai@odr-room.com までお送りください。